

キャベツ

コナガ

発生の動向

- 1 令和3年の5月中旬の産卵は、確認されなかった（平年24.3%、図1）。
- 2 幼虫の時期別発生圃場率は、平年より少なく推移した（図2）。

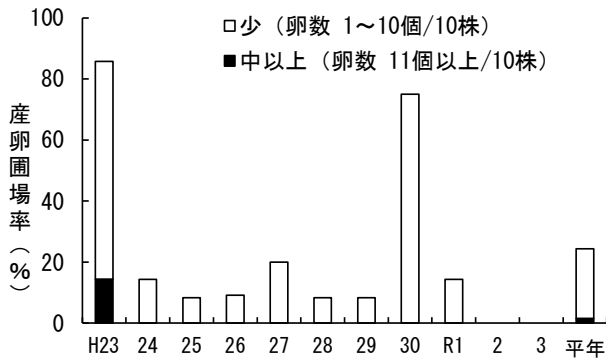


図1 5月中旬のコナガ産卵圃場率の年次推移

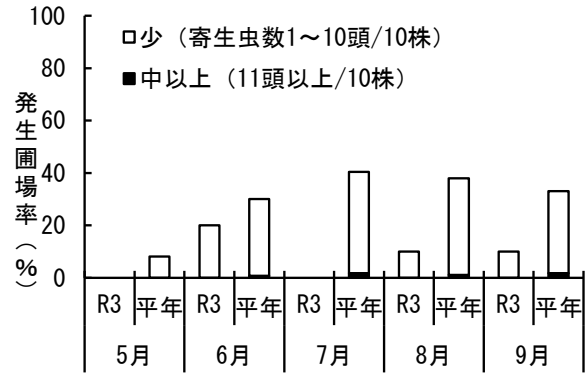


図2 コナガ幼虫の時期別発生圃場率

防除対策

- 1 本種は本県露地での越冬は難しいと考えられるが、越冬源となる可能性がある育苗施設内の残さや雑草等は、育苗開始前に除去する。
- 2 セル苗へのかん注処理や定植時の粒剤施用に、茎葉散布を組み合わせた防除を行う。
- 3 ジアミド系殺虫剤抵抗性コナガによる被害拡大を防ぐため、ジアミド系殺虫剤の使用はかん注処理を含めて1作型1回を厳守すること。
- 4 薬剤抵抗性が発達しやすい害虫なので、系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布を行い、1系統1作型1回の使用にとどめる。
- 5 早春まき、春まきキャベツではフェロモントラップを利用した防除開始時期の予測法（図3）を活用して、効率的防除に努める。

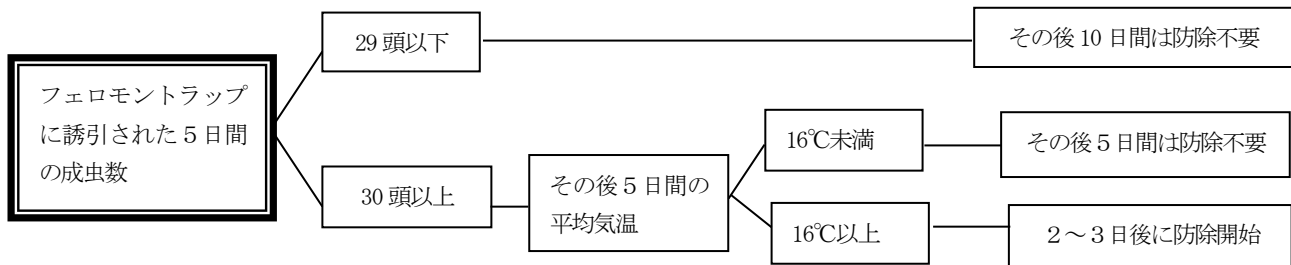


図3 フェロモントラップを利用したコナガ防除開始時期の予測